



# 鶏けいめい鳴

〒221-0864

横浜市神奈川区菅田町2851

(電話 045-473-7191)

## イエスの言葉

『もしこの日に、お前も平和への道を  
わきまえていたなら…。しかし今  
は、それがお前には見えない』

聖書(ルカ福音書19章42節)

牧師 河合裕志

このイエスの言葉の前には次のように記されている。「エルサレムが近づき、都が見えたとき、イエスはその都のために泣いて、言われた」。

イエスが泣いた、と。イエスも泣くことがあるんだ。他でもイエスは泣いている。ヨハネ福音書11章35節に「イエスは涙を流された」と。これは友人ラザロが死んでその墓前で泣いたということ。親しい者の死位、悲しいことはない。

イエスは神の子だけれど、同時に正真正銘の人間の子。私達と同じ血が流れ、喜怒哀楽の感情を持っている。泣く時は泣き怒る時には怒る、この位人間らしいことはないというもの。

ところで今イエスは都が見えて泣いたという。都エルサレムを目指してやって来たイエス、オリーブ山の下り坂にさしかかったあたりで都の城壁や神殿が目に入った時に、はらはらと涙を流すことに。これって何の涙？何がそんなに悲しい。

それはこの都が平和への道をわきまえていないから、知っていないから。するとどうなる。『やがて時が来て、敵が周りに堡壘を築き、お前を取り巻いて四方から攻

め寄せ、お前とそこにいるお前の子らを地にたたきつけ、お前の中の石を残らず崩してしまおうだろう』。だから悲しい。

もしそんなことになればこれは大変。それは実現した？残念ながら実現した。イエスの預言から40年程して、紀元70年にエルサレムはローマ軍によって陥落した。何十万という死者。以降ユダヤ民族は祖国を失い世界に散っていった。

イエスにはどうもそれが見えていたみたい。そこは神の子、すごい洞察力。紀元前587年のバビロン軍によるエルサレム陥落も記憶のうちにあったこと。

イエスはとに角武力によらないで平和を模索するタイプ。圧政者ローマに対して武器をもって戦う、その思いはわかるけれどもイエスはその方法をとらなかった。ローマの圧倒的軍事力には勝目がない、このあたりも冷静に見ていた。

ではどんな平和への道があるんだろう。イエスは汝の敵を愛せよ、と言う。敵も神が愛している存在であることを覚え、なお愛をもって折衝して行く、外交努力を粘り強く重ねて行くということでは？血だけは避けたい。

### 集会案内

日曜礼拝：午前10時15分、日曜夕拝：午後6時

子どもの教会：日曜日午前9時

求道者会：日曜日午前9時40分

中高青年会：日曜日礼拝後

お話し会、卓球：水曜日午後1時～7時

お祈り会：水曜日午前6時、午前10時、午後7時